

育成センターだより

令和3年度
No. 421

長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

長野市青少年健全育成環境浄化強調月間(10月)
全国子ども・若者育成支援強調月間(11月)
全国児童虐待防止推進月間(11月)

年度中間の育成活動

長野大通りにはやたらと小さな交差点が多い。そこを行き交う人たちは、どんなに小さな交差点でもきちんと信号待ちをしている。誰も見ていないとつい渡ってしまいうるに思えるが、朝の忙しい時でも、信号待ちをしている姿の中に、地域の健全育成の成果が映っているように思える。

一年の実り多い収穫期を迎えるこの時期に、子どもたちの確かな成長を見つめ感じ取り、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちとの関わりを深めながら、環境の浄化、声かけ、非行防止に努めてまいりましょう。二期も後半に入ります。



育成活動の重点

★ 子どもの表情、言葉遣い、行動に個々の成長を感じ取ろう

子ども自らの自立を支えるために、わずかな変化を見落とさず、成長を見つけ、励まし、見守りを

★ あいさつは 子ども以上に 大人から

笑顔でさわやかなあいさつを 子どもたちちにプレゼント できにくいあいさつだからこそ大人から

★ 深夜徘徊は 非行の芽

深夜の歩み、遅い帰宅に、愛の一声を。コンビニ前、公園、神社、駐輪場などに愛の眼差しを

★ 相談は、受けとめ、寄り添い、語り合い

相談は、説教、指導の前に、まずはしっかり聴くことから。そうして共に未来を語り合います

ポストコロナを見据えた 高校における教育活動の意義について

旧第3通学区校長会長 長野西高等学校長 小松 容

今年度、旧第3通学区の校長会長を仰せつかっております長野西高等学校長の小松と申します。よろしくお願ひします。私からは、青少年健全育成に関わり、高校という立場からお話をさせていただきます。と思います。

2学期早々、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、県立高校は、「各校の状況に応じて対面授業とオンライン授業や自宅での課題学習を併用しながら、生徒同士の接触機会を低減させる。また、期間中は、学校行事や部活動は原則実施しない。」こととなりました。昨年度の休校期間の成果や課題も踏まえ、各校とも対面授業とオンライン授業を組み合わせ、学習活動が滞らない対応をしました。一方で、オンライン授業がスムーズに行くという事は、登校しなくても学習活動ができるということであり、毎日登校して教育活動を行う今の学校のスタイルが問われることにもなります。日本語で「教育」を意味する「education」という単語は、「外へ」「duce」導く「ation」は「すること、するもの」、つまり、「能力を導き出す、引き出す」という意味につながる。とされています。私たち教師の役割は、知識の伝達だけではなく、

本来生徒が持っている良さや可能性を引き出すことだと思っておりますが、役割を果たすことができるのは、生徒が毎日登校し、学習活動や学校行事、部活動、生徒会活動等が行われるということが前提だと考えています。

コロナ禍における文化祭の実施過程を例に取りますと、何が正解かわからない状況の中で、唯一の正解は、その時その時にできることを創造力を働かせ精一杯創り上げていくことだと思えます。ぶつかり合いながらも協働して一つの企画を創り上げるその過程が生徒を成長させていきます。従って、学校における様々な活動は、教師にとっても生徒にとっても「education」が最大限に発揮される大切な機会だと思えます。

9月以降、高校では、進学・就職指導が本格化します。部活動の大会も行われます。日頃の練習の成果を発揮できる機会があることは、モチベーションの向上にもつながります。また、修学旅行やクラスマッチなどの行事もあります。が、残念ながら実施時期を変更したり、修学旅行に関しては、目的地の変更や日程を縮小しながらも何とか実施できるように方向性を探っているところです。それは、

単に新型コロナウイルスの感染予防という観点からだけでなく、学校行事が生徒の成長を大きく促す活動だからです。

高校生活は、人生のターニングポイント(転換点)の準備期間と言っていると思います。そして、ポストコロナ、つまりコロナ終息後には、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることが出来る個人に育っていくことが一層求められます。更に、令和4年4月1日に、民法の一部を改正する法律が施行され、成人年齢が現行の20歳以上から18歳以上に引き下げられることが決まっています。来年度から高校では、成人と未成年が混在することになり、私たちは社会の大きな変化に立ち会うこととなります。社会の変化や価値観の多様化に対応できる人間に成長するためには、何事にも前向きに積極的に挑戦する精神と、常に高い志を持ち続けることが大事です。「教育活動を止めない」という言葉には、そんな意味が込められています。生徒の成長を願いながら日々"education"を実践しています。今後ともよろしく願います。

コロナ禍における健全育成活動

安茂里地区住民自治協議会健全育成部会
部会長 池田 敏彦

当安茂里地区の健全育成部会は、巡回と育成会の二本柱を中心に活動を行っています。が、昨年度からのコロナ禍で例年通りの活動が出来ず、今年度も半分が過ぎ、このまま今年度も終わってしまうのではないかと危惧しております。その様な中でもコロナ感染に配慮した活動をご紹介させていただきます。

健全育成部会は当然ながら子供達を対象とした活動であります。当地区には小学校が4校・中学校が1校・高校が1校ありますので、年度始めに各学校を回り各校長先生との意思疎通を図り、別途、目を改め各校長先生と意見交換会を実施しております。子供達が、特にこのコロナ禍でどんな学校生活を送っているのか、放課後はどうしているのか、コンビニに行っても子供達を見かけず、非常に気になる場所です。

一方、「子供達が明るく健やかに成長していくために、家庭や地域、学校はどうあったらよいか」を共に考える会を開催しましたので、ご紹介したいと思います。この会は各児童・生徒に住民自治協議会の存在を知ってもらうことと、相互理解を深めることを目的としています。



健全育成を進める会の様子

前半は学校からの生徒会活動・地域貢献

献、育成会からの育成会活動等の報告を行い、活発な意見交換を行いました。

後半では、市内の心理相談所長に講演をお願いしました。演題は「よりよい親子関係のために」です。多くの親御さんにとって子供との関係はどうあったらいいのか、悩み多い命題ではないでしょうか。所長さんからは心理カウンセラーという立場で過去の経験実績に基づき、適切なアドバイスがあり、今後の親子関係についてプラスになりました。

その他に学校運営委員会に参画し、学校と住民自治協議会とのパイプ役を担っており、特にコロナ禍における学校行事・学校運営等のあり方について意見交換を行い、相互理解を深化しています。

学校現況

長野東高等学校 学校少年育成委員 小泉 智

本校は1974年(昭和49年)に開校した今年で創立47年の普通科高校で、多くの生徒が学習、クラブ活動、生徒会などに積極的、一生懸命に取り組んでおります。

大変落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送られていますが、学校で重点的に指導していることが2つあります。

1つ目はスマートフォンの使用方法です。昨今のICT教育の進展を踏まえ、本校でも来年度より生徒1人1台のタブレット導入を予定しており、これを活用した更なる教育活動の充実が期待される場所です。しかし、スマホを初めとしたICT機器は便利ではありますが、どのような社会、場面にも繋がって

しまう為、使用方法を間違えると生徒が思わぬ形で犯罪、事故などに巻き込まれる可能性もあり、実際そのような案件も多数発生しています。導入に伴いスマホを含め、ICT機器の正しい利用方法を教えることは保護者、学校の重要な役割であると考えており、本校では1年時の5月に講師を招いて「スマホの適切な使用を学ぶ教室」を行うと共に、日頃のHRなどでも適切な使用の注意喚起を行っています。

2つ目は自転車乗車指導です。本校生徒は9割近くが自転車通学しており、年間平均25件程度の自転車事故が発生しています。幸い命に関わる重大事故は現段階では起きてはいませんが、事故状況からかなり危ないものもあります。本年度は警察より「自転車安全モデル校」にも指定され、自転車指導に対しては特に次のような指導を行っています。



自転車安全モデル校の認定式

- ① 毎日、朝の挨拶指導
毎朝、管理職、生活指導、教務、進路の三主任、当番職員が事故防止啓発の意味も込めて昇降口、自転車置き場で挨拶立ち番指導を実施。
- ② 自転車安全教室の開催
学年ごとに安全教室を開催して正しい乗車方法を学ぶ。例年、2学年は自動車学校に向き安全教室を実施。
- ③ 自転車保険加入の確認
全員が学校へ確認書を提出。

これからも生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、今後も様々な取組を行っていききたいと思います。

いつでもどこでも出かけます 少年育成センター 出前講座

7月～10月にかけて、多くの学校、住民自治協議会、団体等から要請を受けて「出前講座」を実施してきました。

学校関係では、小・中・高校で実施し、児童・生徒対象から職員研修、PTA研修と幅広く行うことができました。題材の中心の内容は「ネット・SNS」に関わる内容です。

豊野西小学校では、夏休みに入り、学校保健員会に参加しました。「ネット・ゲーム依存から子どもを守る」をテーマに、ネット依存の健康被害について研修をしました。コロナ禍ということもあり、保護者、学校医、職員が



放送による出前講座（南部小学校）

各教室で放送を通して講演を聴き、そして話し合いの形をとりました。その後の検討会では、意欲的に多くの意見が出され、子どもたちの健康を心配する声が聞かれました。また、ろう学校では、中等部、高等部に分かれて研修を行いました

た。字幕付きのDVDを使い、手話通訳の方にお手伝いいただきました。子どもたちは真剣に話を聞いていました。スマホ依存スケール（事故診断表）を用いて、日常のスマホ依存度（ゲーム依存度）を確かめ、これからの生活について考えることができました。生徒は次のように感想を書いてくれました。

○今日の講演を聞いて、自分の普段のスマホの使用の様子から、トラブルや犯罪に巻き込まれる見落としがあるなと思いました。アプリの利用規約を読まなかったり家のルールはあるけど忘れてしまったりとたくさんあるので、これからはルールをしっかり守っていききたい。

○スマホ依存スケールをやってみると計28点だったので（30点以上が依存症の可能性あり）、自分のスマホの使い方を見直す必要があるなと思いました。スマホを使用している時に、タイマーをかけ、使いすぎないようにするなど工夫したい。

また、文化学園中学・高等学校では、「SNS等のネットトラブル・犯罪被害」について、2学期に入る前に職員研修を行いました。高校生は、スマホの所持率はほぼ100%、どういう状況からトラブルや犯罪に巻き込まれていくのか、具体的な事例から研修しました。

夏休み中は、職員研修として出前講座を呼んでいただくことが多く、長野東部中学校へも出かけました。

少年育成委員の活動を体験してもらっています

一日少年育成委員では、コロナ感染防止対策をとった上で、中高PTAの皆様を中心に、長野駅、繁華街の巡回指導を体験いただいております。

実施日（各月第1土曜日）

7月3日 9月4日（中止）
10月2日 11月6日

参加者の感想から

○地区の巡回では、こういう機会がないと入ることもないゲームセンター、カード売り場、アニメコーナー、ネットカフェなど見ることができ、今の子どもたちがどういふことに興味をもっているのか把握することができ、とても貴重な体験をさせていただきました。お店の店長さんとも話をするのも普通はありません。とても参考になりました。



店長に子どもたちの様子を聞くことができました。



最後に、長野駅前交番で子どもたちの様子をお聞きしました。

○コロナ禍ではありますが、街には人が増えつつあるなと思いました。小さな子どもはあまり見かけませんでしたが、小学校は特に繁華街と一体ですので、見守ってくれる大人がいるんだと示すことが大切なことだと思ひ、少年育成の仕事は大変だと実感しました。声かけの仕方も教えていただきとても参考になりました。

○定期的に学生の姿は少なかったが、巡回中すれ違う学生の何人かが腕章に目をやる姿があり、委員の皆さんの日々の活動が街に浸透していると感じました。巡回先でも、挨拶にいれば快く応じてくださる場所が多く、協力できていることや年齢確認の方法等の質問も的確に答えていただき、気持ちよかったです。

9月は中止になりました。新型コロナウイルスの感染の状況によりますが、できる限り多くの方に参加いただき、続けていきたいと思っております。ご協力をよろしく願います。

住民自治協議会・青少年健全育成活動

地域が動いています

今年も、コロナ禍ということもあり、全ての活動が例年通り行うことが難しい状況です。それでも、感染防止対策を行いながら、各地区で青少年健全育成活動に取り組んでいただきました。



ゲームコーナーでの巡回指導(三輪地区)



地域の方々による地区巡回(朝陽地区)

6月25日(金)は、朝陽地区、27日(日)は、三輪地区、29日(火)には安茂里地区の研修会に参加しました。青少年の非行・犯罪の現状や街頭指導・環境浄化活動の内容と配慮点を研修し、実際に各地区のコンビニ店、カラオケ店、神社、公園など、子どもたちが集まりやすい場所を巡回し、声かけなどを行いました。また、三輪地区は、10月17日(日)にも、長野駅周辺の中心街の巡回指導を行いました。

立入調査13日間

長野市全部回ります

長野市青少年保護育成条例に基づき、有害図書類を陳列する際の配慮や青少年の飲酒・喫煙防止、万引・不良行為防止への協力などを求めるため、青少年育成センター職員が市内を回っています。9月6日(月)のDVD販売・レンタル店と書店を皮切りに12月のコンビニ店まで、延べ13日間、189店舗を回ります。これまでも、どの店舗も立入調査の趣旨を理解いただき、大変協力的に受け入れていただきました。



多くの店舗は明るく清潔感があり、防犯に配慮がなされ、成人向け雑誌、酒類の表示、陳列は明確で分かりやすくなっていました。たばこ販売の扱いも年齢認証も的確に実施されて配慮を感じます。



現在コンビニ店では、ほとんどこのコーナーは見なくなりました

学校少年委員のみなさん ご苦労様でした

本年度、学校少年育成委員(新規)の110名による巡回指導は、夏休み中に計画していましたが、コロナの感染防止対策として、学校ごとに行う方法に変えて行いました。学校ごと、コンビニ店、カラオケ店、ゲームセンター、映画館、インターネットカフェ、書店、公園、交番、量販店を巡回していただきました。2学期が始まると、どの学校からも実施記録と多くの情報が寄せられました。



○人通りが少ない地下道は、日中でも単独での通行は心配される場所なので、必ず複数で通行するように指導したいと思う。子どもたちには、日常的な指導が必要だ。

○平日の午後で学生たちの姿は少なかった。中学生だけで、書店、ゲームセンター、コンビニ店等が集まっていることが予想されたが、そのような姿はなかった。通常の下校時に駐車場に集まって話をして

迷惑をかけていたコンビニ店の方も、夏休み中の迷惑行為は全くなかったという話でした。多くの報告の中で、街で子どもの姿が見えなくなったとありました。どこで、どんなことをしているのか? この静けさが心配にもなりました。



☆困ったら…困る前に☆ 少年育成センター相談ダイヤルへ

電話 2288-85888

月々金曜日 8時30分〜17時15分

※匿名でけっこうです
来所の相談にも応じています

編集後記

出前講座が多くなり、学校へ出かける機会が多くなりました。聞いている子どもたちは真剣で、こっちも、もっと準備しておけばよかったと思うくらいです。そこで出会う先生と子どもたちがいっぱい。これからは、どう関係性を築いていけるかが、何事にもまして大事な気がしてなりません。

今回から、出前講座で使ってきた資料を「出前講座通信」として発行することにしました。ご覧いただき、今後の指導に役立てていただければ幸いです。